

## 1848年以來、ヨーロッパアラブーアメリカー日本に脈打つ民衆運動

～以下、「ニュースの本棚 オキュパイとは何か」（編集者 池上善彦）＜朝日新聞（12.3.4）＞より～

注：・・・・・・は省略部分です。

### ■私たちが知らなかった民衆史

「私たちの民主主義は名ばかりのものにすぎません。私たちが投票するですって。それはどういうことなのでしょうか」「似たり寄つたりの二人からの選択なのです」。こう語るのはあのヘレン・ケラーだ。社会主義者であった彼女はこの言葉通り、直接行動に生涯邁進（まいしん）した。これが私たちの知らなかったアメリカの民衆史なのである。

昨年9月から始まったアメリカのオキュパイ運動は、決して突然始まったわけではない。その背後に無数の民衆の多様な試みがあったのである。・・・・99%の人々が共通性を自覚し始めるとき、直接行動による大きな変革が始まるであろう・・・・。

「我々は99%である」という胸に迫るスローガンと、オキュパイ（占拠）という魅力的な実践を象徴とするアメリカのオキュパイ運動は、極端な格差社会にあるアメリカというスーパーパワーの国家の中心部から、これ以上はもはや耐えられないというぎりぎりのところから立ち上がってきた、目を見張る運動である。

### ■先行したアラブ

ウォールストリートというまさに心臓部から始まったこの運動は、多様な課題を抱えながら瞬く間に全米に広がり今では二千万人以上で繰り広げられるに至っている。その直接行動の基調となっているのは、アメリカの伝統に根ざしたアナーキズムだ・・・・・・。

オキュパイ運動に先行し、これに多大なインスピレーションを与えたのが昨年の1月から始まったアラブの春である。この運動の帰趨（きすう）をめぐる、スロヴェニアの哲学者スラヴォイ・ジジェクとイランの思想家ハミッド・ダバシの小さな論争があった。アラブの春の終焉（しゅうえん）を断言するジジェクに対して、ダバシはここに至るアラブ民衆の歴史を見よと批判する・・・・・・。

またパキスタンの思想家タリク・アリはアラブの春が始まった直後、これはヨーロッパの1848年の市民革命がアラブに及んだものであると喝破した。ウィーン体制を打破したこの革命は市民革命であると同時に貧民の革命でもあった・・・・・・。

19世紀の中盤に端を発した民衆革命は二百年近い時を経て、アラブに至り、ブーメランのようにヨーロッパ、そしてアメリカに回帰した。その大きな流れの中に日本もある。

### ■日本の地下水脈

原発事故への怒りと生存のぎりぎりのところから発生し、ほぼ毎週全国のどこかで行われているデモによって日本社会は漸次変わりつつある。この流れは・・・・・・明治維新以来の地下水脈であった・・・・・・。

そして、デモばかりではなく、無数の市民グループによる放射能の計測運動という特異な事故による特異な形態の運動を我々は生み出した。ある市民計測グループの言葉にこうある。「自分自身で考え、自分自身で勉強し、自分自身で測り、自分自身で自分を守る」

◇いけがみ・よしひこ 編集者 56年生まれ。「現代思想」前編集長。『現代思想の20年』（以文社）